

# No.498 (秋号) は「社会保

若い世代の声から生まれたテキストです



この度、若い世代向けに社会保障の学習テキストとして、『社会保障入門テキスト』を作成しました。社会保障に対する「疑問」や、改善運動への「思い」、「悩み」など、若い世代の実際の声を取り入れたテキスト作りをめざしました。

作成に携わった『社会保障』誌編集委員から、社保テキストの魅力などを紹介します。完成までもう少し、ご期待ください！

(写真左から久保田直生さん、曾根貴子さん)

## 若者もベテランも、一緒に学べる

久保田：「社会保障入門テキスト」は5つの章で構成されていますが、セールスポイントのひとつは、「若い世代にやさしい内容だけど、ベテラン職員も一緒に学べる」です。

第1章は、「若手職員のフリートーク」を紹介しながら、若者の社会保障運動への参加と育成など、問題を投げかけています。

第2章では、「私たちのくらしと関係する社会保障」と題して、図表を用いて解説しています。最近では「社会保障は高齢者のもの」というプロパガンダが強まっているように思いますが、社会保障が人間の生涯においてどのように関連するか、視覚的にも分かりやすくなりました。

第3章は「分野で学ぶ社会保障」で、中央社協の加盟団体の協力をいただき、若い世代にも分かりやすく解説してもらいました。

第4章では、2人の研究者が社会保障について理論的にアプローチしています。このほか、フリートークに参加してくれた若い世代も、社会保障運動に対する率直な思いを寄稿してくれています。

『社会保障』誌編集委員

久保田 直生

2019年に医療生協さいたまから全日本民主医療機関連合会(全日本民医連)に転出。現在、全日本民医連の社保運動・政策部に所属し、無差別平等の医療・介護の実現をめざして「人権としての社会保障運動」に取り組んでいます。

職場のみんなで読んでみてね!



担当分野	担当団体
医療 ▶	保団連
介護 ▶	民医連
年金 ▶	年金者組合
障害 ▶	障全協
生活保護 ▶	全生連
子育て支援 ▶	福祉保育労
働き方 ▶	全労連
ジェンダー平等 ▶	新婦人
平和 ▶	民医連

# 障入門テキスト」特別号!

私たちが編集委員です!

『社会保障』誌編集委員

曾根 貴子

全国保険医団体連合会(保団連)に2012年入局。母親の闘病経験から、お金の心配なく安心して医療を受けられる社会の実現や、知られていない社会保障制度を多くの方に知らせていきたいと思い、保団連へ。医師・歯科医師とともに、社会保障の充実をめざし活動しています。



## 今こそ、世代を超えてスクラムを!



曾根：作成にあたり、世代を超えた多くの方にご協力いただきました。他団体の方と社会保障について語り合う機会はあまりないので、新たな気づきもありました。これまではないテキストになっているはずです!

現在、「お金のある高齢者には負担をしてもらう」「病気になるのは自己責任」など、社会保障の原則が捻じ曲げられています。そのため、社会保障の改善のためには、私たちが改めて「社会保障」の原則をしっかりとつかむことが重要です。テキストが、若い方々には社会保障の改善運動に踏み出すきっかけに、ベテランの先輩方にとっては若い世代と社会保障について語り合うきっかけとなることを願っています。

久保田：職場などで多世代と一緒に活用して欲しいですね。読み合わせた後、お互いの意見を交わし合うことで学びが深まるはず。世代間対立を煽る世論づくりが盛んになっていますが、社会保障運動の素晴らしいところは、「誰かのために」「私のために」になっていること。そして、「私のために」は、「誰かのために」になっていることだと思います。今こそ、世代を超えてスクラムを組む時。このテキストがその一助になることを願っています。

## 12人の若い世代とフリートーク

久保田：今回の「社会保障入門テキスト」の重要テーマは、「若い世代が学べるテキスト」を作ることでした。多くの団体で「若い世代の育成」が共通した課題となっていますから、望まれているテキストだということは、よく理解していました。でも、どうしたらニーズに答えられるテキストが作れるのか?と悩んでいました。ある日、「若い人のフリートークから出発したら?」とアドバイスをもらい、一気にテキスト作りの道が開けた感じでしたね。それで、さっそくフリートークの参加を募るチラシを作って募集したところ、応募してくれたのが12人の若者。フリートークを開催して彼らに社会保障について率直に語ってもらいました。

曾根：フリートークで一番感じたことは、社会保障を改善させたいという思いは、世代に関係なく共通しているということです。仕事の中で社会保障の脆弱性に気づいたり、社会保障が改善されてきたために、患者さんや利用者さんに十分に対応できないという壁にぶつかったり…そんな気持ちを共有することができたことで、私自身も改めて社会保障の改善をめざす組織で働く原点を思い出しました。

久保田：彼らのフリートークは、とても刺激的でした。彼らの言葉には、忘れていたことを思い出させる、そんな力がありました。「若い世代向け」をめざしたテキストですが、社会保障にある程度詳しい方にとっても、学びや気づきを得られるテキストになると確信しました。

曾根：若い世代も、周りの人と社会保障について語り合いたいと思っていることも強く感じました。日常業務で忙しく、職場の同僚や先輩とござらんに、日頃思っていること、職場での悩みなども含めて語り合える機会が必要だなと思います。

